

【一】 次の傍線部の漢字をひらがなに、ひらがなを漢字に直しなさい。（読みも書きも送り仮名を入れて答えること。）

① 湾曲した表現。

② 酪農家の朝は早い。

③ 悪い行いに対して叱る。

④ お客様に内容を伺う。

⑤ 青銅を鋳る。

（十点満点）

⑥ 彼の成長はいちじるしいものがある。

⑦ 飛びはねる。

⑧ かんがい深いものがある。

⑨ ごほうめいはかねてより伺っております。

⑩ ゴミをほうきする。

【二】 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

（二十点満点）

祖母は歯がないから、言葉はたいがい不明瞭だが、そのときは確かに、えびフライではなくえんぴフライという言葉をもらしたのだ。

祖母は昨夜の食卓の様子を（えびのしっぽが喉につかえたことは抜きにして）祖父と母親に報告しているのだろうかと思つた。そういえば、祖父や母親は生きているうちに、えびのフライなど食つたことがあつたろうか。祖父のことは知らないが、まだ田畑を作っている頃に早死にした母親は、あんなにうまいものは一度も食わずに死んだのではなからうか——そんなことを考えているうちに、① なんとなく墓を上目でしか見られなくなつた。父親は、少し離れた崖ぶちに腰を下ろして、黙つてたばこをふかしていた。

父親が夕方の終バスで町へ出るので、独りで停留所まで送つていった。谷間はすでに日がかげつて、雑魚を釣つた川原では早くも河鹿が鳴き始めている。村外れのつり橋を渡り終えると、父親は② として付けたように、

「こんだ正月に帰るすけ、もつとゆつくり。」

（1）この場面で、辺りの情景を書いている一文がある。

（i）その文の初めの七文字を書きなさい。（二点）

（ii）その一文によつて、どんな気持ちがより強く表れているか次から一つ選びなさい。（二点）

ア 夏休みの楽しさ イ 別れの寂しさ

ウ 土産の喜び エ 父への不満

（2）傍線部①とあるが、少年は、どんな気持ちだったと思われるか。三十文字以内で書きなさい。（四点）

（3）傍線部②とあるが、この様子からうかがえる父親の

と言った。するとなぜだか③不意にしゃくり上げそうになつてとぎに
「冬だら、ドライアイスもいらねな。」
と言った。

「いや、そうでもなかべおん。」と、父親は首を横に振りながら言った。「冬は
汽車のスチームがききすぎて、汗こ出るくらい暑いすけ。ドライアイスだら、
夏どこでなくいるべおん。」

それからまた、停留所まで黙つて歩いた。

バスが来ると、父親は右手でこちらの頭をわしづかみにして、

「んだら、ちゃんと留守してれな。」

と揺さぶつた。それがいつもより少し手荒くて、それで頭が混乱した。④い
だら、さいならと言つつもりで、うつかり、

「えんびフライ。」

と言つてしまつた。

バスの乗り口の方へ歩きかけていた父親は、ちよつと驚いたように立ち止ま
つて、苦笑した。

「わかつてらあに。また買つてくるすけ……。」

父親は、まだ何か言いたげだったが、男車掌が降りてきて道端に痰をはい
てから、

「はい、お早くう。」

と言つた。

父親は、何も言わずに、片手でハンチングを上から押さえてバスの中へ駆け
込んでいった。

「はい、発車あ。」

と、野太い声で車掌が言つた。

(三浦哲郎『盆土産』)

ア 寂しそうな息子を情けないと思つてゐる。
イ 知らぬ間に成長していた息子にとまどつてゐる。
ウ 家族や故郷と離れたくない気持ちをこらえてゐる。
エ 大事なことを家族に言い忘れて慌ててゐる。

(4) 傍線部③とあるが、なぜそうなつたのか。

次から二つ選びなさい。(二点×二)

ア 急に話しかけられて慌てたから。

イ しばらく会えないと実感したから。

ウ 夏休みの宿題のことを思い出したから。

エ えびフライのことを考えていたから。

オ 父親が急に優しい言葉をかけたから。

カ 父親の言葉がそつてなかつたから。

(5) 傍線部④について、このとき「えんびフライ」と言つてしま
つたのはなぜだと思われるか。「父の愛情」「父との別れ」とい
う言葉を使い、四十五文字以内で書きなさい。(六点)

三

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

① 死んだ父は筆まめな人であった。

私が女学校一年で初めて親元を離れたときも、三日にあげず手紙をよこした。當時保険会社の支店長をしていたが、一点一画もおろそかにしない大ぶりの筆で、

「向田邦子殿」

と書かれた表書きを初めて見たときは、② ひどくびっくりした。父が娘宛ての手紙に「殿」を使うのは当然なのだが、つい四、五日前まで、

「おい、邦子！」

と呼び捨てにされ、「ばかやろう！」の罵声やげんこつは日常のことであったから、突然の変わりように、こそばゆいような晴れがましいような気分になったのである。

文面も、折り目正しい時候の挨拶に始まり、新しい東京の社宅の間取りから、庭の植木の種類まで書いてあった。文中、私を貴女とよび、

「貴女の学力では難しい漢字もあるが、勉強になるからために字引を引くように。」という訓戒も添えられていた。

ふんどし一つで家中を歩き回り、大酒を飲み、かんしゃくを起こして母や子供たちに手を上げる父の姿はどこにもなく、威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親がそこにあった。

暴君ではあったが、反面照れ性でもあった父は、他人行儀という形でしか十三歳の娘に手紙が書けなかったのである。もしかしたら、③ 日頃気恥ずかしくて演じられない父親を、手紙の中でやってみたのかもしれない。

手紙は一日に二通来ることもあり、一学期の別居期間にかなりの数になった。私は④ 輪ゴムで束ね、しばらく保存していたのだが、いつとはなしにどこかへいつてしまった。父は六十四歳でなくなったから、この手紙のあと、かれこれ三十年付き合ったことになるが、優しい父の姿を見せたのは、この手紙の中だけである。

(向田邦子『字のない葉書』)

(二十点満点)

(1) 傍線部①とあるが、どの点から「筆まめ」と言えるのか。次の文の「ア・イ」に入る言葉を字数に合わせて抜き出しなさい。(二点×二)

・手紙が(ア 六文字)届き、(イ 五文字)来ることもあった点。

(2) 傍線部②とあるが、普段の父は「私」に対してどんな態度をとっていたか。二十五文字以内で書きなさい。(四点)

・(二十五文字以内)という態度。

(3) 父の手紙について。(二点×二)

(i) どのような字で書かれていたか。十八文字で抜き出しなさい。

(ii) (i)の字から、どのような父であることが読み取れるか。一つ選びなさい。

ア あらゆることに気配りできる、繊細な父。

イ 細かいことはきにしない、おおらかな父。

ウ 母や子供たちには甘い、自分には厳しい父。

エ きちようめんだが、堂々として威厳のある父。

(4) 傍線部③とあるが、手紙の中での父はどのような父親だったか。文章中から十二文字で抜き出しなさい。(四点)

(5) 傍線部④とあるが、「私」のどのような思いが感じられるか。「優しさ」「愛情」という言葉を用いて、三十文字以内で書きなさい。(四点)

四

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

(二十点満点)

① 絶海の孤島の巨像を作ったのは誰か。謎が謎を呼び、宇宙人がやって来て作ったのではないかという説まで飛び出した。しかし、最近になって、それは西方から島伝いにやって来たポリネシア人であることが判明した。墓の中の化石人骨の分析や、彼らが持ってきたヒョウタンなどの栽培作物の分析から明らかになったのだ。さらに、初期の遺跡から出土した炭化物を測定した結果、ポリネシア人が最初にこの島にやって来たのは、五世紀頃であることも明らかになった。

その頃、人々はポリネシアから運んできたバナナやタロイモを栽培し、豊かな海の資源を採って生活していた。そして、十一世紀頃、突然巨大なモアイの製造が始まる。同じ時期に、遺跡の数も急増しており、この島の人口が急激に増加を始めたことがわかる。人口は百年ごとに二倍ずつ増加し、十六世紀には一万五千から二万に達していたと推定されている。

大半のモアイは、島の東部にある② ラノ・ララクとよばれる石切り場で作られた。このラノ・ララクには、モアイを作るのに適した軟らかい凝灰岩が露出していたからである。人々は硬い溶岩や黒曜石でできた石器を使って、モアイを削り出した。

削り出されたモアイは、海岸に運ばれ、アフとよばれる台座の上に立てられた。このとき初めて、モアイに目の玉が入れられた。アフの上のモアイは、大抵の場合、陸の方に向けて立てられた。それは、モアイがそれぞれの集落の祖先神であり、守り神だったからだと考えられる。人々はいつもモアイの目に見守られながら生活していたのであろう。

それにしても、③ ラノ・ララクの石切り場から、数十トンもあるモアイをどのようにして海岸のアフまで運んだのだろうか。石ころだらけの火山島を十キロも二十キロも運ぶには、木のころが必要不可欠である。モアイを台座のアフの上に立てるときでも、支柱は必要だ。

しかし、現在のイースター島には、オーストラリアから持ってきて最近植栽したユーカリの木以外には、森は全くなく、広大な草原が広がっているだけである。モアイが作られた時代、モアイの運搬に必要な木材は存在したのだろうか。

④ この謎を解決したのが、私たちの研究だった。私はニュージーランドのマセイ大学 J・フレンリー教授と共に、イースター島の火口湖にボーリングをして堆積物を採取し、堆積物の中に含まれている花粉の化石を分析してみた。すると、イースター島にポリネシア人が移住した五世紀頃の土の中から、ヤシの花粉が大量に発見されたのだ。このことは、人間が移住する前のイースター島が、ヤシの森に覆われていたことを示している。

まっすぐに成長するヤシの木は、モアイを運ぶためのころには最適だ。⑤ 島の人々はヤシの木をころとして使い、完成したモアイを海岸まで運んだのであろう。

(安田喜憲『モアイは語る―地球の未来』)

(1) 傍線部①について答えなさい。(二点×三)

(i) 誰が作ったと判明したか。

(ii) 何を分析して分かったのか。四文字で二つ書き抜きなさい。

(2) 傍線部②とあるが、モアイが作られた理由を二十七文字で書き抜きなさい。(二点)

(3) 傍線部③とあるが、筆者がこのような疑問を抱いたのは現在のイースター島がどんな状況であるからか。二十文字以内で書きなさい。(二点)

(4) 傍線部④について答えなさい。(二点×二)

(i) どのような謎か。一つ選びなさい。

ア モアイの目は、どの工程で入れられたのかという謎。

イ モアイが、陸に向けて立てられたのはなぜかという謎。

ウ 支柱を使わずに、モアイを立てられたのかという謎。

エ モアイの運搬に必要な木材が、島にあつたのかという謎。

(ii) この謎の研究結果からわかったことを、三十文字で書き抜きなさい。

(5) 傍線部⑤とあるが、この答えを導いた根拠はどのような内容か。自分の言葉でまとめて書きなさい。(六点)

〔五〕 次の文法問題を答えなさい。（十五点満点）

(1) 次の傍線部の言葉は、あとのどれに当たるか。
記号で答えなさい。（同じものを何回選んでもよい。）
（一点×十）

- ① 市長に市民の要望をお伝えする。
- ② 体育館の清掃には、モップを使います。
- ③ 当店は、創業百年の和菓子屋でございます。
- ④ 来賓の方を応接室にご案内する。
- ⑤ 出展された作品を拝見する。
- ⑥ 明日は出かける予定です。
- ⑦ 審査員が私の絵をご覧になる。
- ⑧ 次回は、今日より早い時間に伺う予定です。
- ⑨ 先生がおっしゃる通りです。
- ⑩ そのお洋服は、お客様にお似合いです。

ア 丁寧語 イ 尊敬語 ウ 謙譲語

〔六〕 次の手紙を読んで、後の問いに答えなさい。

(2) 次の傍線部の言葉を、正しい敬語に直しなさい。
（一点×五）

- ① お客様は、こちらに座りますか。
- ② 私どもの社長がこちらに来ます。
- ③ 父は僕に手紙をもたせてくださいました。
- ④ 皆様、こちらを拝見してください。
- ⑤ 先生に会えて、光栄でございます。

（十五点満点）

拝啓

(①)。南商店の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。
さて、先日は私たちの職場体験のためにお時間をいただき、ありがとうございました。印象に残っているのは、お客様と接する姿が印象に残っています。その姿から、(②)。
夏の疲れが出る頃です。皆様、お体を大切になさってください。

敬具

十月十三日

上田 洋子

南商店 御中

(1) (①)に入る言葉を一つ選びなさい。(三点)

ア 桜の花が美しい季節になりました。

イ すがすがしい初夏の風が吹くようになりました。

ウ 秋風が心地よい季節になりました。

エ 厳しい寒さが続いています。

(2)傍線部の言葉を、言葉の重複がない正しい表現に直しなさい。(三点)

(3) (②)の部分に、この手紙のまとめとして、「職場体験で学んだことを、今後の生活でどう生かしていくか。」という内容を書きたいと考えています。条件に合わせて思いが伝わるように想像しながら、(②)に入る適切な文章を書きなさい。

(三点×三)

条件① 職場体験で学んだことを想像して書くこと。

条件② 今後の生活でどう生かしていくかを書くこと。

条件③ 誤字・脱字や文法の間違いに注意して、丁寧な文字で書くこと。